

- 問1

明治政府が北海道の組織的な開発を進めるために「開拓使」という機関を設置した際、農業に従事して土地を切り拓きながら、同時に北方の警備という軍事的な役割も兼ねて配置された人々を何と呼びますか。

(2021年 神奈川県公立入試 類似)

1. 屯田兵

2. 地頭

3. 防人

4. 御家人

問2

日本の農業統計において、北海道は都府県と比べて1戸あたりの経営耕地面積が極めて広く、10ha以上の面積を持つ農家が全体の6割を超えています。このように広大な土地を利用した「大規模経営」が展開される中で、農業所得を世帯収入の主軸としている農家のことを何と呼びますか。北海道ではこの形態の農家が約7割を占めており、都府県の約2割という数値と比較して非常に高い割合となっています。

(2018年 長野県公立入試 類似)

1. 専業農家

2. 副業的農家

3. 準主業農家

4. 主業農家

問3

日本の農作物の生産統計において、北海道が全国の生産量の約8割を占め、主に砂糖の原料として利用される寒冷地向けの作物は何ですか。

(2018年 長野県公立入試 類似)

1. りんご

2. てんさい

3. 茶

4. さとうきび

問4

北海道の旭川市など、内陸部の都市の開発に関連した歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。

(2016年 群馬県公立入試 類似)

1. アイヌの人々が古くから築いていた大規模な城郭都市を、明治政府が接収して発展させた

2. 戦後の高度経済成長期に、石炭採掘の拠点としてゼロから建設された

3. 明治時代以降、屯田兵が配置され、北方警備と並行して農地の開拓が行われた

4. 江戸時代に松前藩が交易の拠点として整備し、本州からの商人が集まって形成された

問5

北海道の石狩平野において、かつて広範囲にわたって見られた、水分を多く含む植物の遺体が分解されずに積み重なってできた土地を何といいますか。この土地はもともと農業には適さない湿地帯でしたが、客土などの土地改良により現在は大規模な稲作地帯となっています。

(2021年 神奈川県公立入試 類似)

1. シラス台地

2. 干拓地

3. カルスト地形

4. 泥炭地

問6

北海道の農業の特色について述べた文として、生乳の利用状況に着目して説明したものとして正しいものを選びなさい。

(2019年 静岡県公立入試 類似)

1. 冷涼な気候を活かして乳牛の飼育が行われているが、生乳の生産よりも食肉用の肉牛の飼育が統計上の大半を占めている。

2. 大消費地に近い利点を活かし、鮮度を保った飲用牛乳を都市部に供給する近郊農業が酪農の主流となっている。

3. 生産された生乳の多くをバターやチーズの原料とする「加工用」に回しており、広大な土地を活用した大規模な酪農が行われている。

4. 生乳の生産量は多いが、そのほとんどは自家消費や道内での流通に限られており、加工品としての道外出荷は少ない。

問7

北海道の農業産出額の構成を示したデータでは、乳用牛や肉用牛といった「畜産」が51.7%を占め、全国平均の31.4%を大きく上回っています。北海道において、このように畜産が盛んになった背景や理由として最も適切な説明はどれですか。

(2017年 埼玉県公立入試 類似)

1. 夏の高温多湿な気候を活かし、広大な土地で年に二度、米を収穫する二期作が行われたため。

2. 広大な土地と冷涼な気候を活かし、大規模な牧草地を確保して酪農などを行うのに適していたため。

3. 大消費地である東京周辺への輸送距離が非常に短く、新鮮な食肉や牛乳を即座に届けられる有利な立地であったため。

4. 山がちで複雑な地形を活かし、小規模な土地で果樹栽培と畜産を組み合わせた多角経営を推進したため。

問8

北海道の平野部について述べた次の文のうち、石狩平野の特徴として最も適切なものはどれですか。なお、北海道の地形において石狩平野は西部に、十勝平野は東部に位置しています。

(2024年 徳島県公立入試 類似)

1. 冷涼な気候と広い土地を利用し、乳牛を飼育する酪農が最も盛んである。

2. かつての泥炭地を土地改良によって克服し、大規模な水田地帯となった。

3. 険しい山々に囲まれた盆地であり、夏に高温になる気候を活かした稲作が行われている。

4. 火山灰が厚く堆積した土地を活かし、ジャガイモやデンサイなどの畑作が行われている。

問9

北海道の北東に位置する国後島などの北方領土をめぐる、日本政府の立場や現状についての説明として正しいものはどれか。

(2019年 岡山県公立入試 類似)

1. サンフランシスコ平和条約において日本が放棄した千島列島の一部であり、現在は国際連合の管理下にある。

2. 日露和親条約においてロシア領と決められたが、日本は歴史的な経緯から返還を求めている。

3. 日本固有の領土であるが、第二次世界大戦終結直後から現在までロシアによって法的根拠なく占拠されている。

4. 北海道の根室半島から最も遠い位置にあるため、現在はロシアとの間で共同統治を行うことで合意している。

問10

札幌市の中心部で、道路が垂直・水平に交わり区画が整理された「格子状の街路」が採用された背景として、最も適切な説明はどれですか。

(2020年 島根県公立入試 類似)

1. 江戸時代の城下町の構造を引き継ぎ、敵の侵入を防ぐために見通しの良い道路を配置したため。

2. 自然発生的に形成された集落が、人口増加に伴って地形に合わせて四方に拡大していったため。

3. 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。

4. 広場を中心に道路が四方八方へ伸びる、中世ヨーロッパの都市計画をそのまま導入したため。

問11

明治時代に行われた北海道の開拓の背景と特徴について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。

(2021年 神奈川県公立入試 類似)

1. 九州地方の沿岸警備を目的として配置された防人が、大規模な志願制度によって北海道へ移された。

2. アイヌの人々の独自の文化や土地利用の権利を保護することを最優先に開発が進められた。

3. 政府は開拓使を設置し、屯田兵による北方の防衛と大規模な土地改良を並行して進めた。

4. 広大な森林を維持するため、農業は一切行わずに毛皮の採取と輸出のみを推奨した。

問12

地形図における縮尺の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれか。なお、札幌市の北海道大学植物園から南東方向に位置する市役所（地点B）までの実際の距離を1km（1000m）とした場合を想定して答えなさい。

(2021年 茨城県公立入試 類似)

1. 2万5千分の1の地形図では、図上の長さは2cmになる。

2. 5万分の1の地形図では、図上の長さは4cmになる。

3. 2万5千分の1の地形図では、図上の長さは4cmになる。

4. 5万分の1の地形図では、図上の長さは5cmになる。

問13

夏の北海道の太平洋沿岸において、寒流の影響で湿った空気が冷やされることにより発生し、日照時間の減少や気温が上がりにくくなる原因となっている気象現象を何といいますか。

(2025年 群馬県公立入試 類似)

1. 線状降水帯

2. 濃霧

3. 季節風

4. やませ

答え合わせ・解説

問1	答え 1 屯田兵	明治時代、ロシアの南下政策を警戒して北方の防衛を強化する必要があったことから、兵士として訓練を受けながら農地の開拓を行う役割を担いました。当初は生活に困窮した士族が中心でしたが、のちに平民も加わり、家族とともに過酷な環境での開拓に従事しました。
問2	答え 4 主業農家	北海道の農業は、明治時代以降の開墾の歴史的背景から1戸あたりの経営耕地面積が非常に広いという特徴があります。生産性の高い大規模経営が行われているため、農業以外の収入に頼る必要が少なく、農業所得を主とする「主業農家」の割合が都府県に比べて圧倒的に高くなっています。これに対し、都府県では経営規模が小さいため、農業以外の収入を主とする兼業農家が多くなっています。
問3	答え 2 てんさい	北海道では、その広大な土地と涼しい気候を活かした大規模な農業が行われています。「てんさい（ビート）」は寒さに強い作物で、日本の生産量のほとんどが北海道で占められており、収穫後は製糖工場で砂糖に加工されます。同じ砂糖の原料である「さとうきび」は、沖縄県や鹿児島県の南西諸島など、暖かい地域で栽培される作物であるため、産地の違いを区別することが重要です。
問4	答え 3 明治時代以降、屯田兵が配置され、北方警備と並行して農地の開拓が行われた	北海道の内陸部にある旭川などは、明治時代に屯田兵村が設置されたことで本格的な開発が始まりました。屯田兵は平時は土地を耕して農業に従事し、有事の際には兵士として活動する役割を担っており、計画的な区画整理によって現在の都市の原型が作られました。
問5	答え 4 泥炭地	石狩川流域に広がる石狩平野の低地には、寒冷な気候により植物が完全に分解されず、炭化した状態で堆積した「泥炭地」が広く分布していました。この土地は非常に水はけが悪く、酸性度も高いため農業には不向きでしたが、明治時代以降、大規模な排水路の整備や、外部から良質な土を運び入れる「客土（きゃくど）」といった土地改良を行うことで、日本を代表する稲作地帯へと変貌を遂げました。
問6	答え 3 生産された生乳の多くをバターやチーズの原料とする「加工用」に回しており、広大な土地を活用した大規模な酪農が行われている。	北海道の酪農は、広大な土地と冷涼な気候を活かした大規模な経営が特徴です。生乳の総処理量は日本国内で圧倒的なシェアを占めていますが、その半分以上が「加工用」として処理されています。これは、大消費地から遠いという地理的制約を克服するために、バターやチーズなどの加工品に特化してきた歴史的な背景があります。
問7	答え 2 広大な土地と冷涼な気候を活かし、大規模な牧草地を確保して酪農などを行うのに適していたため。	北海道、特に根釧台地などの地域は、夏でも気温が上がりにくく霧が発生しやすい冷涼な気候であるため、伝統的な稲作には向きませんでした。一方で、その広大な土地を牧草地として活用することで、牛を飼育する酪農や肉用牛の生産といった「畜産」が発展しました。このように、地形や気候といった自然環境に合わせて、最も効率的な農業形態を選択した結果、大規模な畜産経営が確立されました。
問8	答え 2 かつての泥炭地を土地改良によって克服し、大規模な水田地帯となった。	石狩平野の最大の特徴は、泥炭地という厳しい自然条件を土地改良によって克服し、水田地帯へと発展させた歴史にあります。選択肢にある火山灰地での畑作は十勝平野、大規模な酪農は根釧台地、盆地での稲作は上川盆地などの特徴であり、それぞれの地域の土地条件と農業形態を関連付けて理解することが重要です。
問9	答え 3 日本固有の領土であるが、第二次世界大戦終結直後から現在までロシアによって法的根拠なく占拠されている。	1855年の日露和親条約において、国後島を含む北方四島は日本の領土として確認されました。それ以降、一度も外国の領土となったことがない「日本固有の領土」ですが、1945年の終戦直後に当時のソ連（現在のロシア）によって占拠されました。日本政府は、サンフランシスコ平和条約で放棄した「千島列島」には北方四島は含まれないという立場をとっており、ロシアに対して一括返還を求めています。
問10	答え 3 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。	札幌は1869年に設置された開拓使によって、何も無い原野から計画的に建設された人工的な都市です。アメリカの都市計画や京都の条坊制を参考に、行政機能や居住区を効率的に配置し、交通の利便性を高める目的で格子状の街路が導入されました。これは、古い歴史を持つ都市が地形や防御上の理由から不規則な街路を持つことが多いのと対照的です。
問11	答え 3 政府は開拓使を設置し、屯田兵による北方の防衛と大規模な土地改良を並行して進めた。	明治政府は、ロシアに対する防衛（国境の確定）と、資源の確保や失業した士族の救済を目的に北海道の開拓を急ぎました。開拓使が中心となって欧米の農業技術を導入し、屯田兵が厳しい自然環境の中で土地を切り拓いたことが、現在の北海道の農地基盤につながっています。
問12	答え 3 2万5千分の1の地形図では、図上の長さは4cmになる。	実際の距離が1km（100,000cm）の場合、2万5千分の1の地形図では、100,000を25,000で割った4cmとして表現される。一方で、5万分の1の地形図では、100,000を50,000で割った2cmとなる。縮尺の分母が大きくなるほど、同じ実際の距離は図上でより短く表示されるという因果関係を理解しておく必要がある。
問13	答え 2 濃霧	北から流れてくる寒流である千島海流（親潮）の上を、夏に南東から吹く暖かく湿った空気を通る際、海面付近で急激に冷やされることで水蒸気が水滴となり、霧が発生します。釧路市などの太平洋沿岸部では、この霧が太陽の光を遮るため、夏でも気温が上がりにくく、日照時間が短くなるという気候特性が見られます。